

研究課題名【患者と看護師の鎮静評価から見る脳血管内治療における意識下鎮静（デクストメジン塩酸塩）の有効性の検討】に関する情報公開

1. 研究の対象

2019年6月1日～2019年8月31日に当院で脳血管内治療を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

【目的】

当院では年間160症例の脳血管内治療が行われています。先行研究では局所麻酔下での脳血管内治療は治療中に意識が保たれることから、術中の患者への負担は大きく対応が必要であると指摘されています。当院でも局所麻酔及び鎮痛薬下で治療を行っていましたが、術中不安が強い、術中安静保持が困難な症例が散見され対応を検討した結果、鎮静薬デクストメトミジン塩酸塩（プレセデックス）を導入しました。そこで、治療後1～3日後に術後オリエンテーションの中で患者に行っている聞き取りアンケートの結果を用い、術中の看護記録から得られる鎮静・疼痛の評価と、患者が術中に感じていた鎮静・疼痛の間の一致性を検証し、明らかになれば、十分な鎮静を行っているか評価する上で有用であるといえます。

【研究期間】は実施認定日～2021年3月31日迄

【方法】

データ収集期間：2019年6月～8月の3か月間

データと収集方法：

①患者から得るデータ、②電子カルテから得るデータ（詳細は「3. 研究に用いる情報の種類」参照）を収集しその後、先行研究「脳血管内治療を受ける患者の精神状態・不安の評価」（松原功明ら 2008年）内で得られた回答結果と比較します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：術後訪問調査の結果、看護師が行った鎮静評価（RASS：Richmond Agitation-Sedation Scale 10段階選択式）、鎮痛評価（フェイススケール6段階選択式）、年齢、性別、身長、体重、BMI、疼痛時鎮痛薬使用の有無、治療経験の有無、バイタルサイン（血圧・脈拍数・酸素飽和度）、検査時間（検査室入室～退室まで）等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院

看護部 看護師長 中川 美保子

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞 65

電話:052-744-2533

研究分担者：

名古屋大学医学部附属病院

看護部 看護師 松岡 架林

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞 65

電話:052-744-2533